

事例番号:320223

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第五部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 2 日

20:30 頃- 腹部緊満感あり

21:50 腹部緊満、胎動減少のため搬送元分娩機関を受診し入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 2 日

21:55- 胎児心拍数陣痛図上、胎児心拍数基線 100 拍/分台、基線細変動減少、高度遷延一過性徐脈を認める

22:50 超音波断層法で胎盤肥厚あり

妊娠 38 週 3 日

0:24 常位胎盤早期剥離疑いの診断で当該分娩機関に母体搬送され入院

0:38 胎児機能不全、常位胎盤早期剥離のため帝王切開により児娩出、子宮底部にケーベル徴候あり

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査で胎盤の辺縁に胎盤後血腫像および血腫近傍でやや陳旧性の梗塞像あり

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 3 日

- (2) 出生時体重:3400g 台
- (3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.77、BE -22.6mmol/L
- (4) アプガースコア:生後1分1点、生後5分4点
- (5) 新生児蘇生:人工呼吸(ハック・マスク、チューブ・ハック)、気管挿管
- (6) 診断等:  
出生当日 重症新生児仮死
- (7) 頭部画像所見:  
生後12日 頭部MRIで大脳基底核・視床に信号異常があり、低酸素性虚血性脳症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

### <搬送元分娩機関>

- (1) 施設区分:診療所
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師:産科医1名  
看護スタッフ:助産師1名、看護師1名、准看護師1名

### <当該分娩機関>

- (1) 施設区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師:産科医4名、小児科医2名、麻酔科医2名  
看護スタッフ:助産師2名、看護師1名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、常位胎盤早期剥離による胎児低酸素・酸血症によって低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考ええる。
- (2) 常位胎盤早期剥離の関連因子は認められない。
- (3) 常位胎盤早期剥離の発症時期は特定できないが、妊娠38週2日の20時30分頃またはその少し前の可能性があると考ええる。

### 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

#### 1) 妊娠経過

搬送元分娩機関における妊娠中の管理は一般的である。

#### 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 38 週 2 日、妊産婦からの電話対応(20 時 30 分頃から腹部緊満がありおさまらないとの訴えに対し、来院を指示)は一般的である。
- (2) 腹部緊満および胎動減少のため来院した際の対応(分娩監視装置を装着、内診)および入院としたことは、いずれも一般的である。
- (3) 21 時 55 分に胎児心拍数 80-90 拍/分と判読し酸素投与を行ったことは一般的であるが、医師への連絡等を行わずに経過観察としたことは一般的ではない。
- (4) 妊産婦の症状(腹部緊満感)および超音波断層法所見(胎盤の肥厚)、板状硬が認められ、常位胎盤早期剥離と診断したことは一般的である。
- (5) 常位胎盤早期剥離と診断し、母体搬送を決定したことは選択肢のひとつである。
- (6) 当該分娩機関到着後の対応(超音波断層法、血液検査)および胎児機能不全、常位胎盤早期剥離の診断で帝王切開を決定したこと、書面を用いて帝王切開の同意を得たことは一般的である。
- (7) 当該分娩機関到着から 14 分後に児を娩出したことは適確である。
- (8) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (9) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

#### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)は一般的である。

### 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

#### 1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

##### (1) 搬送元分娩機関

胎児心拍数陣痛図の判読と対応を「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」に

則して習熟することが望まれる。

**(2) 当該分娩機関**

なし。

**2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項**

**(1) 搬送元分娩機関**

母体搬送が必要と判断された場合は、出来るだけ速やかに搬送できるように搬送先の分娩機関との連携を図ることが望まれる。

**(2) 当該分娩機関**

なし。

**3) わが国における産科医療について検討すべき事項**

**(1) 学会・職能団体に対して**

常位胎盤早期剥離は、最近の周産期管理においても予知が極めて困難であるため、周産期死亡や妊産婦死亡に密接に関与する。常位胎盤早期剥離の発生機序の解明、予防法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。

**(2) 国・地方自治体に対して**

なし。